

# 文教企業委員会 所管事務調査報告書

令和元年7月～令和2年6月

・小学校・中学校の給食について

## 目次

・ はじめに	1
・ 調査項目選定の経緯	2
・ 調査の経過	3
・ 現状と課題	8
・ 委員から出された主な意見・提案	10
・ 提言・まとめ	11

## ■ はじめに

常任委員会は、その部門に属する事務に関して調査を行う権限を有している。

所管事務調査は市から提案された予算案や条例案などの議案を審査するのとは異なり、常任委員会が自主的にテーマを設定し、調査を行うものである。

本委員会では、令和元年7月から令和2年6月にかけて、「小学校・中学校の給食」についての調査を行った。

### 調査委員

委員長	田中みわ子
副委員長	阪井昌行
委員	山上文恵
〃	梶山政孝
〃	橋口晶
〃	神田隆彦
〃	北川一清
〃	中田光政

## ■ 調査項目選定の経緯

現在、呉市の学校給食調理施設は、多くの施設が老朽化や学校給食衛生管理基準への対応が課題となっている。

また、中学校の給食においては、旧市内の中学校で実施されているデリバリー給食の喫食率低下が、他市と同様に課題として取り上げられている。

このような課題に対し食育という観点も含め、小学校・中学校の学校給食の在り方について調査検討を進めることとした。

## ■ 調査の経過

令和元年7月2日

### 委員間討議（調査項目の選定）

各委員がそれぞれ調査項目について提案した。委員間で協議し、その後の正副委員長協議を経て、「小学校・中学校の給食」について調査することに決定した。

令和元年8月21日

### 委員間討議（課題や問題点等の確認）

調査項目について、現状における課題や問題点等を確認するため、呉市の現状、課題、今後の方向性など、当局から呉市の取り組み状況について説明を受けた。

令和元年9月10日

### 委員間討議（県外視察に向けて）

学校給食に関する取り組み等の先進事例を研究するため、令和元年10月に千葉県船橋市、山梨県甲府市、東京都調布市を視察することに決定し、視察先における取り組みの概要を委員長が説明した。

その後、呉市が抱えている課題や問題点を把握した上で視察に臨むため、意見交換を行った。

令和元年10月15日～10月17日

### 県外視察

#### 【千葉県船橋市】

船橋市の学校給食では、小学校、中学校の全校で自校調理方式による給食を行っている。各学校では栄養教諭または学校栄養職員を1名配置し、献立を作成するとともに給食を通じた食育の推進を行っている。

給食室は、老朽化が進んでいるため、順次、ドライ方式へ大規模改修を行っている。

中学校では、平成5年から平成16年にかけて順次給食を整備し、その際、ランチルームを全校に設置した。全生徒および教諭が昼食をランチルームで食べることで異学年との交流や食事指導、配膳を行わないことで衛生的であるといった効果がある。また、給食の喫食率は平成30年度で96.4%となっている。



中学校給食の献立は、主食が米飯のものとパンまたは麺の2種類と持参弁当の選択制になっている。また、献立を自ら選択することにより、望ましい食生活を身につけ、自己管理能力を養うことにつながっている。

その他、調理業務の積極的な民間委託、給食費の公会計化といった取り組みが行われている。

また、所管事務調査項目以外の小中学校運動部活動指導者派遣事業についても説明を受けた。



#### 【山梨県甲府市】

台風19号の影響により視察が中止となり、国会議事堂訪問、地元選出の国会議員と面会を行った。

#### 【東京都調布市】

調布市の中学校給食は、小学校で調理した給食を中学校へ配送する親子方式と持参弁当の選択制で、喫食率は96.6パーセントとなっている。親子方式を選択した経緯は、検討時に小学校の児童数が減少しており、既存の小学校の給食設備が活用できるため、新たに中学校給食設備を実施するより合理的と判断したためである。近年、地域によっては生徒数が増加して調理能力が限界に達している小学校があり、親子方式の組み合わせの変更が課題となっている。

給食の運搬は、業者委託で実施しており、現在、最長区間で2.7キロメートル、所要時間15分以内と短く、二重構造の食缶を利用して保温しているため、自校調理と変わらない温度で提供している。

中学校給食におけるアレルギー対策は、詳細な献立表を生徒に渡し、原則、生徒本人が自ら除去する対応をとっている。

小学校の給食室の改修は、20校中11校が終了しており、今後も年1校のペースで改修していく予定である。

また、所管事務調査項目以外の調布市防災教育の日についても説明を受けた。



令和元年11月5日

#### 委員間討議（県外視察の感想）

県外視察を振り返り、各委員が気づきや感想などを述べ、それぞれの考えを共有した。

令和元年11月6日

#### 議会報告会（PTA連合会）

保護者として中学校給食をどのように考えているかなど、学校給食についての意見交換を行った。

令和元年11月20日

#### 議会報告会（川尻地区）

川尻地区で議会報告会を行い、川尻地区で行っている親子方式などについて意見交換を行った。

令和元年11月27日

#### 委員間討議（論点の協議）

今後、どのように調査・研究を進めていくかについて協議し、今後の協議の参考とするために共同調理場の視察が提案された。

令和元年12月17日

#### 委員間討議（県内視察及び市内視察の決定）

前回の委員会で提案された共同調理場の県内視察と併せて、呉市のデリバリー給食の試食を行うことを決定した。

令和2年1月29日

#### 市内視察（中学校デリバリー給食）

阿賀小学校で開催された、新中学1年生の保護者を対象としたデリバリー給食の試食会に参加した。

試食前には、次のとおり給食について説明を受けた。

①副菜は食品衛生上10℃以下に保温する必要があるため、どうしても冷めた状態での提供になること



②食材は旬の食材や地場産の食材を使用し、呉の郷土料理や季節の料理を献立に盛り込んでいること

③毎月、デリバリー給食を委託している3業者と献立会議を行い味の均一化を図っていること

試食後に行った保護者との意見交換では、「中学校に通う子供からおいしくないと聞いていたが、実際に食べてみるとおいしいと感じた」「子供にぜひ食べさせてほしい」といった意見など、ほとんどの保護者がおいしかったという意見であった。



令和2年1月31日

## 県内視察（広島市）

### 【広島アグリフードサービス株式会社】

平成29年度、広島市五日市地区の共同調理施設の老朽化に伴い、調理施設の整備と調理等の委託業務について、プロポーザル方式により事業者を決定し民設民営による給食を開始した。

民設民営での施設整備が採用されたのは、次のことが期待できるためである。

- ①計画着手から事業開始までに要する期間の短縮
- ②民間事業者が建設・維持・運営等を一括して請け負うことによるイニシャルコストとランニングコストの削減
- ③施設や人材を有効活用した付帯事業を実施することによる給食提供に係るコスト削減
- ④民間の技術やノウハウ等の活用により、公共の枠組を超えた取組

選定された広島アグリフードサービス株式会社は、県内の米や野菜を関連企業で育て、自社工場で調理する6次産業化事業体として、学校給食への地場産物の活用促進を図っている。

給食の提供方法については、片道30分以内で食缶による配送をすることで自校調理とほぼ変わらない温度で提供している。また、各学校の残食について統計一覧表を作成して広島市に提供している。



令和2年2月10日

委員間討議（市内・県内視察の感想，論点の協議）

市内・県内視察を振り返り，各委員が気づきや感想などを述べ，それぞれの考えを共有した。  
また，今後提言をまとめる上での論点を整理した。

令和2年3月10日

委員間討議（学校給食に関するアンケート調査結果の報告，提案方法の協議）

学校施設課から，令和元年7月8日～19日に行った学校給食に関するアンケート調査結果についての行政報告が行われ，学校施設課との質疑応答，委員間での気づきや感想などを共有した。

また，これまでの協議内容を整理し，当局への提案方法について協議した。

令和2年6月18日

委員間討議（報告書の確認）

正副委員長が取りまとめた報告書案について，内容の確認を行った。

## ■ 現状と課題

### 1. 呉市の実施状況（平成31年4月1日現在）

給食調理方式・献立	小学校	中学校	合計
自校調理方式・共通献立	26校	0校	26校（旧市内）
自校調理方式・単独献立	2校	1校	3校（安浦地区）
親子方式	1校	1校	2校（川尻地区）
共同調理場方式・単独献立	4校	5校	9校（音戸・倉橋地区,警固屋中,宮原中）
共同調理場方式・単独献立	3校	3校	6校（安芸灘島嶼部）
デリバリー方式・共通献立	0校	16校	16校（旧市内）

### 2. 給食施設の老朽化と学校給食衛生管理基準への対応

#### （1）給食施設の老朽化

呉市の給食調理場：32施設

昭和49年以前に建設：7施設

昭和50年～昭和63年に建設：18施設

平成元年以降に建設：7施設

#### （2）学校給食衛生管理の基準への対応

文部科学省が制定している学校給食衛生管理基準では、施設の新築や改築に当たってはドライ方式を導入することとし、導入していない調理場においては、ドライ運用を図ることとされている。

現在、呉市では、ウエット方式とドライ方式の給食施設が混在している。ドライ方式の施設は4施設のみで、その他の施設はドライ運用を行っているが、施設面積が狭いために基準に定められた作業区分ができないなどの衛生環境や、また、エアコンなどの空調整備、設備の老朽化などの労働環境も課題となっている。

※ウエット方式…調理中に床がぬれる前提で設計された調理場

ドライ方式……床などは乾いた状態で、食中毒の原因となる細菌が繁殖しにくいよう設計された調理場

ドライ運用……ウエット方式の調理場において、ドライ方式と同様に床が乾いた状態で使用すること。

### 3. デリバリー給食の喫食率

旧呉市内の中学校では、平成27年にデリバリー給食と持参弁当との選択制を開始後、デリバリー給食の喫食率が年々低下している。

(平成27年開始時 45.1% → 平成31年4月時点 27.0%)

喫食率の低下により、当初期待されていた栄養バランスの取れた食事の提供、家庭での弁当作りの負担軽減といった効果が限定的となっている。

また、委託業者にとっては、提供数低下による売上減少によって、安定的な運営に支障を来す可能性もある。

## ■ 委員から出された主な意見・提案

### 給食の在り方について

#### (1) 給食施設の老朽化と学校給食衛生管理基準への対応

- ・ 全ての施設の改修は予算面などから、終了するまでかなりの年数が必要となる。共同調理場を建設することにより短期間で課題が解決するのではないかと。また、市内に整備することで、運搬時間も短くなって温かい給食を提供することができるようになり、デリバリー給食を選択しない一因である「冷めておいしくない」という問題も解消できるのではないかと。

#### (2) デリバリー給食の喫食率に伴う中学校給食の在り方

- ・ 視察先では自校調理方式を採用しており高い喫食率だった。呉市も自校調理方式を導入すれば温かい給食を提供でき、喫食率が上がるのではないかと。ただし、新たに整備するには場所の確保や予算などの課題も多く、現実的ではない。
- ・ 川尻地区で行われている親子方式を採用してはどうか。
- ・ 米主体の給食と麺主体の給食など、2種類から選択できるような方法を採用できないか。
- ・ デリバリー給食のご飯の量が多いという意見もあるので、ご飯の量の調節、または、主食だけを持参するといった方法を採用できないか。
- ・ 旧呉市内での中学校給食は、導入することが目的であったので既に達成されている。持参弁当との選択制としている上での喫食率低下は、委託業者の運営に支障を来さない範囲であれば問題ないのではないかと。

#### (3) 食育について

- ・ 全生徒が栄養バランスの取れた食事を摂取できるように、全員喫食を検討するべきではないか。
- ・ 全員で食事ができるランチルームを考えてみてはどうか。
- ・ 給食の時間が短く食べきれないといった意見も聞いているので、もう少し長く取るべきである。

## ■ 提言・まとめ

呉市における学校給食については、学校給食調理施設の老朽化、中学校デリバリー給食の喫食率など、課題が多岐にわたっている。

文教企業委員会では、次に掲げる事項を考慮しながら、当局において検討委員会を設置し、課題を総合的に検討するよう提言する。

### (1) 給食施設の老朽化と学校給食衛生管理基準への対応

- ①国が定める自校調理方式を行っている給食施設の減価償却期間は41年とのことであるが、呉市では、ほとんどの施設が築後41年を経過していることから、経費、工期、将来の子供の人口推計などを基に、現在の給食施設の改修のほか、中学校給食も合わせて共同調理場の建設、中学校の給食設備の整備、親子方式など、今後の呉市を見据えた方針に合わせた施設整備を検討すること。
- ②現在の給食施設では、エアコン等の空調整備が進んでいないが、今後、新たな方針を決定すること。ただし、移行するまでには一定期間必要と考えられるため、それまでに行うことができる適切な処置を早急に講ずること。

### (2) デリバリー給食の喫食率に伴う中学校給食の在り方

- ③デリバリー給食の喫食率については、新たな方針の決定、移行までの間、委託業者の安定的な運営に支障を来すことがないように、維持に努めること。
- ④検討期間については、現在のデリバリー給食の委託期間、または、長期となる場合には次期委託期間を考慮し、検討期間を設定すること。

### (3) 食育について

- ⑤中学校給食については、給食施設の整備と合わせて今後の方針を検討し、また、全生徒が栄養バランスの取れた食事を摂取できるよう全員喫食についても検討すること。

呉市の学校給食の在り方については、文教企業委員会内で意見が割れることもあったように、様々な意見がある。検討委員会において、多様な意見を集約し、方針を決定することは非常に難しい作業だと想像できるが、呉市で育つ子供を最優先に考え、将来を見据えた方針を提案していただけることを期待し、今後も当局の取り組みを注視していきたい。